

『計量国語学』アーカイブ

<b>ID</b>	<b>KK300409</b>
<b>種別</b>	追悼
<b>タイトル</b>	宮島達夫先生著作目録
<b>Title</b>	Bibliography of Tatuō Miyazima
<b>著者</b>	山崎 誠
<b>Author</b>	YAMAZAKI Makoto
<b>掲載号</b>	30巻4号
<b>発行日</b>	2016年3月20日
<b>開始ページ</b>	243
<b>終了ページ</b>	250
<b>著作権者</b>	計量国語学会
<b>正誤情報</b>	p.250 本文の下から2行目 (誤)「世界の言語と日本語将来」 (正)「世界の言語と日本語の将来」

追悼

## 宮島達夫先生著作目録

山崎 誠 (国立国語研究所)

この目録は、宮島達夫氏の学術的著作を各種データベースで検索して編集委員会が確認できる範囲でまとめたものである。著編書と論文等に分け、それぞれ年代の古い順から配列した。

論文名は「 」で、掲載誌名および図書名は『 』で、英文論文は” ”で、英文の書名はイタリックで、それぞれ示した。巻号および開始ページ終了ページの情報、例えば、5(2): 10-20。(5巻2号10ページから20ページまで)のように示した。叢書名、特集名、調査報告・ノートなどの記事種別やコラム名は論文名のあとに〔 〕で示した。( )内は共著の情報などの注記である。出版者の情報は、学会誌・紀要等は発行者(編集者)を、それ以外は出版社を示した。簡体字・繁体字は原則として日本の通用字体に置き換えた。

## 1. 著編書(科研費成果, 国語研報告書等, 電子データを含む)

- 1957.02 『ことばの発展』福村書店 136p.  
 1957.10 『講座現代の用字・用語教育 第2巻 単語教育』<sup>1</sup>春秋社 240p.  
 1962.09 『現代雑誌九十種の用語用字 第一分冊 総記および語彙表』〔国立国語研究所報告 21〕秀英出版 321p.  
 1964.03 『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊 分析』〔国立国語研究所報告 25〕秀英出版 337p.  
 1964.12 『語彙教育—その内容と方法—』<sup>2</sup>麦書房 254p.  
 1968.07 『単語指導ノート』麦書房 293p.  
 1969.12 『古典対照語い表(1967-1969 科研費「作品用語の類似度の研究」成果報告) 14+129p.  
 1971.03 『動詞形容詞問題語用例集』〔国立国語研究所資料集 7〕(西尾寅弥との共著) 秀英出版 272p.  
 1971.09 『古典対照語い表』〔笠間索引叢刊 4〕. 笠間書院 340p.  
 1972.03 『動詞の意味・用法の記述的研究』〔国立国語研究所報告 43〕秀英出版 761p.  
 1972.04 『類義語辞典』(徳川宗賢との共編) 東京堂出版 457p.  
 1981.03 『専門語の諸問題』〔国立国語研究所報告 68〕秀英出版 286p.  
 1982.02 『図説日本語—グラフで見ることばの姿—』〔角川小事典 9〕(野村雅昭・江川清・中野洋・真田信治・佐竹秀雄との共編) 角川書店 597p.  
 1987.03 『雑誌用語の変遷』〔国立国語研究所報告 89〕秀英出版 427p.  
 1989.03 『「分類語彙表」形式による語彙分類表』(科研費<sup>3</sup>成果報告) 国立国語研究所 270p.  
 1992.09 『フロッピー版古典対照語い表および使用法』(中野洋, 鈴木泰, 石井久雄との共編) 笠間書院.  
 1993.12 『分類語彙表(フロッピー版)』〔国立国語研究所言語処理データ集 5〕秀英出版.

1 書誌上は「中村通夫・金田一春彦・奥田靖雄共編」だが、「責任編集者のことば」(p.3)に執筆者は宮島達夫である旨が書かれている。

2 著者は「教科研東京国語部会・言語教育研究サークル」となっているが、奥付に執筆者として「坂本英子・鈴木重幸・鈴木康之・高木一彦・宮島達夫」の名前がある。

3 特定研究「大量データの収集と処理の研究」(代表者・野村雅昭)の分担研究「日英語彙データの収集・比較と機械辞書の作成」(分担者・中野洋)。

- 1994.12 『語彙論研究』 むぎ書房 584p.
- 1996.03 「「分類語彙表」形式による語彙分類表（増補版）第 1 分冊〈本表〉」（科研費<sup>4</sup>成果報告）  
国立国語研究所 302p.
- 1996.03 「「分類語彙表」形式による語彙分類表（増補版）第 2 分冊〈索引〉」（科研費<sup>5</sup>成果報告）  
国立国語研究所 340p.
- 1996.04 『日本語類義表現の文法（上）単文編』（仁田義雄との共編）くろしお出版 382p.
- 1996.04 『日本語類義表現の文法（下）複文・連文編』（仁田義雄との共編）くろしお出版 383-711p.
- 1997.03 『現代雑誌九十種の用語用字全語彙・表記（FD 版）』（国立国語研究所言語処理データ集  
7）三省堂.
- 2003.03 『分類語彙表一増補改訂版一』<sup>6</sup>〔国立国語研究所資料集 14〕（林大，中野洋らとの共編）  
国立国語研究所 815p.
- 2003.03 『長塚節「土」会話部分の標準語訳と方言による朗読』<sup>7</sup>（科研費<sup>8</sup>報告書）大阪学院大学情  
報学部 96p.
- 2004.01 『分類語彙表増補改訂版』〔国立国語研究所資料集 14〕（林大，中野洋らとの共編）大日本  
図書 706p.
- 2004.02 『分類語彙表増補改訂版データベース』（林大，中野洋らとの共編）国立国語研究所.
- 2014.06 『日本古典対照分類語彙表』（鈴木泰，石井久雄，安部清哉との共編）笠間書院 1147p.
- 2015.01 『万葉集巻別対照分類語彙表』笠間書院 253p.

## 2. 論文等（学会誌，商業誌，紀要等に掲載されたもの）

- 1953.03 「ことばつくりの研究へ」『コトバの科学』9<sup>9</sup>民主主義科学者協会 言語科学部会.
- 1953.11 「作文から拾ったまちがい」〔児童言語研究—その 17—〕『新しい教室』8(11): 28-31. 中教出  
版.
- 1954.08 「「コトバつくり」と漢語」『国語問題の現代的展開』65-71. 理論社.
- 1956.01 「動詞から名詞をつくること」『Rômazi Sekai』487: 11-14. 日本ローマ字会.
- 1956.03 「発音をおぼえたはなし」『Rômazi Sekai』490: 118-124. 日本ローマ字会.
- 1956.07 「文法体系について—一方言文法のために—」『国語学』25: 57-66. 国語学会.
- 1956.10 「「土」と茨城弁」〔特集 現代文学と方言〕『言語生活』61: 77-81. 筑摩書房.
- 1956.02 「ことばの発展」『講座日本語 第 1 巻 民族とことば』97-120. 大月書店.
- 1957.02 「わかち書き論の反省」『Rômazi Sekai』501: 80-83. 日本ローマ字会.
- 1957.09 「現代文学と方言—現代文学と茨城弁」〔方言の旅〕『NHK 国語講座』3(5):27-28. 日本放送  
出版協会.
- 1958.01 「語彙論について」〔研究発表要旨<sup>10</sup>〕『言語学研究会ニュース』8:10-13. 言語学研究会.
- 1958.04 「近代日本語における単語の問題」『言語生活』79: 17-26. 筑摩書房.
- 1958.07 「語彙教育について」〔特集 国語教育の課題〕『教育』89: 21-27. 国土社.
- 1958.09 「言語政策の歴史」〔発表要旨〕『言語学研究会ニュース』11: 7-12. 言語学研究会.
- 1959.01 「言語政策ノ歴史」『カナノヒカリ』439: 14-17. カナモジカイ.

4 創成的基礎研究費「国際社会における日本語についての総合的研究」（代表者・水谷修）の分担研究  
「表記・表現に関する実験的研究」（分担者・中野洋）.

5 同上.

6 本書のデータが若干整理され，翌年大日本図書から刊行された.

7 CD1 枚付き.

8 特定領域研究（A）『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』

9 開始・終了ページ数不明.

10 1958 年 12 月 16 日の言語学研究会.

- 1959.03 「方言の語イ体系—茨城方言の形容詞を例にして—」『国語学』36: 15-32. 国語学会.
- 1959.04 「標準語教育と標準語の語イ」『言語学研究会ニュース』14: 4-5. 言語学研究会.
- 1959.08 「ピエール・ギロー著 鳥田茂訳 文法」『言語生活』95: 75. 筑摩書房.
- 1960.12 「国語教育 語い教育の諸問題」〔教科教育の現代的課題〕『教育』123: 25-32. 国土社.
- 1960.06 「矢崎源九郎著「これからの日本語」」〔私の読んだ本〕『言語生活』105: 73. 筑摩書房.
- 1961.06 「母音の無声化はいつからあったか」『国語学』45: 38-48. 国語学会.
- 1961.09 「榎垣実著「バラとサクラ—日英比較語学入門—」」〔私の読んだ本〕『言語生活』120: 85-86. 筑摩書房.
- 1961.03 「方言の実体と共通語化の問題点 6 福島・茨城・栃木」遠藤嘉基他編『方言学講座 第2巻 東部方言』236-263. 東京堂.
- 1962.01 「ことわざの言語学」〔特集 ことわざの運命〕『言語生活』124: 34-42. 筑摩書房.
- 1962.02 「これからの方言語い論」『国文学 解釈と鑑賞』27(2): 76-80. 至文堂.
- 1962.03 「空間的な量をあらわす形容詞」〔第45回大会発表報告要旨〕『言語研究』41: 100-101. 日本言語学会.
- 1962.04 「展示物の説明文」〔特集 解説時代〕『言語生活』127: 60-63. 筑摩書房.
- 1962.12 「カカリの位置」『計量国語学』23: 3-11. 計量国語学会.
- 1963.11 「語い教育・いくつかの要点」〔特集 国語教育研究の新段階〕『教育』13(12): 30-38. 国土社.
- 1964.03 「2.4 活用形の使用度数の分布」『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊 分析』〔国立国語研究所報告 25〕66-68. 秀英出版.
- 1964.03 「3 助詞・助動詞の用法」『現代雑誌九十種の用語用字 第三分冊 分析』〔国立国語研究所報告 25〕69-239. 秀英出版.
- 1964.06 「教師のための語い論 (1) 第一章 語い論とその教育」『作文と教育』15(6): 84-89. 百合出版.
- 1964.07 「教師のための語い論 (2) 第二章 意味」『作文と教育』15(7):73-81. 百合出版.
- 1964.08 「教師のための語い論 (3) 第二章 意味 (つづき) / 第三章 単語の種類」『作文と教育』15(9):65-73. 百合出版.
- 1964.08 「ウルマン著・山口秀夫訳「意味論」」〔私の読んだ本〕『言語生活』155: 86-87. 筑摩書房.
- 1964.09 「教師のための語い論 (4) 第四章 単語の系列」『作文と教育』15(10):58-63. 百合出版.
- 1964.10 「教師のための語い論 (5) 第五章 単語の使われ方 / 第六章 和語・漢語・外来語」『作文と教育』15(11)43-49. 百合出版.
- 1964.11 「教師のための語い論 (6) 第七章 単語の作り方」『作文と教育』15(12):62-68. 百合出版.
- 1964.12 「教師のための語い論 (終) 第八章 慣用句 / 第九章 辞書」『作文と教育』15(13):38-43. 百合出版.
- 1965.03 「いくつかの文法的類義表現について」『ことばの研究 第2集』75-106. 秀英出版.
- 1965.05 「〈座談会〉現代国語に見る言語教材の実状—その望ましい方向を探る—」『高校教育研究』2(14)<sup>11</sup>. 大日本図書.
- 1965.05 「単語指導ノート」『教育国語』1:80-81. 麦書房.
- 1965.08 「単語指導ノート」『教育国語』2:86-87. 麦書房.
- 1965.11 「単語指導ノート」『教育国語』3:84-85. 麦書房.
- 1966.01 「方言教育論—標準語教育への提案—」〔特集 標準語と方言〕『言語生活』172: 26-35. 筑摩書房.
- 1966.03 「意味の体系性」『教育国語』4: 48-69. 麦書房.
- 1966.03 「単語指導ノート 意味と文脈」『教育国語』4:100-101. 麦書房.
- 1966.05 「榎垣実編「外来語辞典」」〔私の読んだ本〕『言語生活』176: 87-89. 筑摩書房.

11 開始・終了ページ数不明.

- 1966.06 「単語指導ノート 質問のしかた」『教育国語』5:134-135. 麦書房.
- 1966.09 「単語指導ノート 国語辞典に対する態度」『教育国語』6:130-131. 麦書房.
- 1966.12 「単語指導ノート 語源指導」『教育国語』7:92-93. 麦書房.
- 1967.03 「現代語いの形成」『ことばの研究 第3集』〔国立国語研究所論集3〕1-50. 秀英出版.
- 1967.03 「単語指導ノート 多義語」『教育国語』8:56-57. 麦書房.
- 1967.06 「単語指導ノート 反対語・系列語」『教育国語』9: 81-86. 麦書房.
- 1967.09 「単語指導の段階と方法」『教育国語』10: 12-29. 麦書房.
- 1967.12 「古典における用語の共通度」〔国語学会研究発表会発表要旨<sup>12)</sup>〕『国語学』71: 107. 国語学会.
- 1967.12 「単語指導ノート 実物と絵」『教育国語』11: 96-97. 麦書房.
- 1968.03 「単語指導ノート 実例」『教育国語』12: 102-103. 麦書房.
- 1968.06 「単語指導ノート 慣用句」『教育国語』13: 126-127. 麦書房.
- 1969.03 「近代日本語における漢語の位置」『教育国語』16: 17-44. 麦書房.
- 1969.03 「総索引への注文」〔特集 国語史資料論〕『国語学』76: 110-120. 国語学会.
- 1969.06 「単語指導ノート」〔新刊自己紹介〕『文法』1(8): 72. 明治書院.
- 1970.06 「古典の品詞統計」『計量国語学』53: 1-8. 計量国語学会.
- 1970.09 「語いの類似度」『国語学』82: 42-64. 国語学会.
- 1970.12 「和語の漢字表記」『教育国語』23: 2-19. 麦書房.
- 1971.05 「<合評>最近の方言集」(W・A・グロートース, 高田誠, 日野資純らとの座談会(司会: 飯豊毅一))『言語生活』236:62-69. 筑摩書房.
- 1971.06 「国広哲弥『意味の諸相』」〔紹介〕『国語学』85: 72-73. 国語学会.
- 1972.03 「語義の記述法」(発題: 森田良行, 池上嘉彦, 司会: 水谷修, 記録: 宮島達夫)〔昭和46年度秋季国語学会大会(記録)〕. 『国語学』88: 88-94. 国語学会.
- 1972.12 「阪倉篤義編『講座国語史3 語彙史』」〔紹介〕『国語学』91: 91-92. 国語学会.
- 1973.12 「無意味形態素」『ことばの研究 第4集』〔国立国語研究所論集4〕15-30. 秀英出版.
- 1974.12 「外来語の表記の変化とゆれ」(高木翠との共著)『計量国語学』71: 1-17. 計量国語学会.
- 1975.02 「少数民族のことばの現状」〔特集 少数民族のことば〕〔座談会<sup>13)</sup>〕『言語生活』281: 3-15. 筑摩書房.
- 1975.03 「西ドイツの国語教育」『教育国語』40: 28-41. 麦書房.
- 1975.11 「自動詞と他動詞」〔言葉の相談室〕『言語生活』290: 76-77. 筑摩書房.
- 1977.01 「英語教師に日本語の勉強をすすめる」〔特集 国語教育と英語教育〕『英語教育』25(11): 30-32. 大修館書店.
- 1977.01 「柴田武編『ことばの意味 辞書に書いてないこと』」〔わたしの読んだ本〕『言語生活』304: 74-76. 筑摩書房.
- 1978.03 「雑誌九十種資料の漢語表記」『研究報告集』1: 53-104. 国立国語研究所.
- 1978.09 「語い論をおしえる意味」『教育国語』54: 2-13. 麦書房.
- 1978.12 「新字体の画数」『計量国語学』11(7): 301-306. 計量国語学会.
- 1979.02 「ことばの海のパイロット 明解研究所を訪ねる」<sup>14)</sup>〔ことばの研究機関訪問11〕『言語生活』326: 82-91. 筑摩書房.
- 1979.06 「憲法の口語化」『教育国語』57: 147-159. 麦書房.
- 1979.09 「田島毓堂・丹羽一弥共編『日本語尾音索引—現代語篇』・風間力三編『綴字逆順排列語構成による大言海分類語彙』」〔紹介〕『国語学』118: 91-95. 国語学会.
- 1979.10 「『共産党宣言』の訳語」『言語の研究』425-517. むぎ書房.

12 昭和42年11月4・5日, 親和女子大学.

13 参加者: 千野栄一, 土田滋, 豊田国夫, 西江雅之 司会: 宮島達夫.

14 見坊豪紀へのインタビュー.

- 1980.03 「意味分野と語種」『研究報告集』2: 1-16. 国立国語研究所.
- 1980.04 「専門語研究の視点」〔特集 職人のことば』『言語』9(4): 50-56. 大修館書店.
- 1981.09 「「文字形態素論」批判」『教育国語』66: 21-35. むぎ書房.
- 1981.12 「「集中識字教育」と日本の漢字指導」『教育国語』67: 12-13. むぎ書房.
- 1982.11 「第十三回国際言語学者会議報告」<sup>15</sup>『言語生活』371: 82-85. 筑摩書房.
- 1982.11 「学術用語とターミノロジー」『ドクメンテーション研究』32(11): 545-546. 情報科学技術協会.
- 1982.12 「1 拍語形の不安定性—「シ」と「シテ」—」『計量国語学』13(7): 289-295. 計量国語学会.
- 1983.05 「単語の意味」『デザイン学研究』42: 14-16. 日本デザイン学会.
- 1983.09 「単語の本質と現象」『教育国語』74: 2-14. むぎ書房.
- 1983.10 「状態副詞と陳述」渡辺実編『副用語の研究』89-116. 明治書院.
- 1984.02 「日本語とヨーロッパ語の移動動詞」『金田一春彦博士古稀記念論文集 第2巻言語学編』486-456. 三省堂.
- 1984.03 「雑誌九十種資料の外来語表記」『研究報告集』5: 43-76. 国立国語研究所.
- 1984.12 「寿岳章子著「室町時代語の表現」」〔書評』『国語学』139: 89-93. 国語学会.
- 1985.03 「「ドアをあけたが、あかなかった」動詞の意味における〈結果性〉」『計量国語学』14(8): 335-353. 計量国語学会.
- 1986.11 「格支配の量的側面」宮地裕編『論集日本語研究(一)現代編』41-58. 明治書院.
- 1986.03 「典型的な格支配」日独語対照研究グループ編『日独両語の対照研究に基づく基本動詞の統語論的意味論的総合記述—二言語辞書のために—』44-51. 日独語対照研究グループ.
- 1986.03 「移動動詞と格・前置詞」『日仏語の基本語彙の対照言語学的研究 論集』(科研費成果報告書) 93-101. 国立国語研究所.
- 1987.06 「アメリカの大学生活から」『教育国語』89: 37-45. むぎ書房.
- 1987.09 「文字指導とかなづかい論」『教育国語』90: 49-55. むぎ書房.
- 1988.03 「「漢字の将来」その後」〔特集 言語生活の将来』『言語生活』436: 50-58. 筑摩書房.
- 1988.09 「芥川賞作品の漢字含有率」〔調査報告』『計量国語学』16(6): 271-278. 計量国語学会.
- 1988.09 「単語の文体と意味」〔特集 位相・位相語』『国語学』154: 78-88. 国語学会.
- 1988.10 「『古典対照語い表』フロッピー版および使用法』について」『リポート笠間』29: 12-13. 笠間書院.
- 1989.03 「古典作品用語の度数分布」〔調査報告』『計量国語学』16(8): 365-377. 計量国語学会.
- 1989.08 「動詞の意味範囲の日中比較」『ことばの科学』2: 179-198. むぎ書房.
1989. “Changes in the language of a magazine” In: Mizutani, Shizuo (ed.). *Japanese quantitative linguistics*. (Quantitative Linguistics Vol.39) 31-49, Bochum: Brockmeyer.
- 1990.03 「語彙史の比較対照—日本語・英語・フランス語・中国語—」『語彙の計量的研究』(国立国語研究所平成元年度研究発表会資料) 15-19. 国立国語研究所.
- 1990.09 「単語の使用度数と長さ・古さ」〔調査報告』『計量国語学』17(6): 287-300. 計量国語学会.
- 1991.01 「言語的不平等と日本語教育」〔連載 日本語教育研究ノート 5』『日本語学』10(1): 80-90. 明治書院.
- 1991.01 「言語のあいまいさ」『教育国語』100: 17-37. むぎ書房.
- 1991.03 「雑誌九十種資料の和語表記」『研究報告集』12: 1-82. 国立国語研究所.
- 1991.10 「『茨城方言民俗語辞典』の印刷と検索」〔連載 わたしのパソコン言語学 2』『日本語学』10(10): 123-130. 明治書院.
- 1992.03 「言語研究におけるシソーラスの利用」(小沼悦との共著)『研究報告集』13: 1-30. 国立国語

15 宮島達夫, 村木新次郎, 杉戸清樹, 中野洋, 沢木幹栄による座談会を再構築したもの.

研究所.

- 1992.03 「言語研究におけるシソーラスの利用」『語の歴史とその研究法』（国立国語研究所平成3年度研究発表会資料）19-24. 国立国語研究所.
- 1992.09 「日本語・ドイツ語のなかの外来語」『計量国語学』18(6): 263-287,309. 計量国語学会.
1992. “Relationships in the length, age and frequency of classical Japanese words” In: Riger, Burghard (ed.), *Glottometrika* 13: 219-229. Bochum: Brockmeyer.
- 1993.03 「日中同形語の文体差」『阪大日本語研究』5: 1-18. 大阪大学文学部日本学科（言語系）.
- 1993.07 「語い指導入門（上）—語いにおける典型例と周辺例—」『教育国語』2(10):14-34. むぎ書房.
- 1993.09 「形容詞の語形と用法」『計量国語学』19(2): 94-104. 計量国語学会.
- 1994.01 「奥田さんの学位取得によせて」『教育国語』2(11): 2-7. むぎ書房.
- 1994.03 「発刊にあたって:「初めにことばありき」」『現代日本語研究』1: 1-5. 大阪大学文学部日本学科現代日本語学講座.
- 1994.04 「語い指導入門（下）—語いにおける典型例と周辺例—」『教育国語』2(13): 16-33. むぎ書房.
- 1994.06 「『国語国文学科』と『日本語日文学科』」〔特集『国語』か『日本語』か』『日本語論』2(6): 44-45. 山本書房.
- 1994.09 「真田信治編『命名の諸相—社会命名論データ集(1)—』」〔統計調査紹介』『計量国語学』19(6): 305-308. 計量国語学会.
- 1994.12 「『言語の経済力』の歴史的展望」〔特集 日本語の国際化』『日本語学』13(13): 19-25. 明治書院.
- 1995.03 「形容詞の名詞かざり」『現代日本語研究』2: 1-38. 大阪大学文学部現代日本語学講座.
- 1995.03 「多言語社会への対応—大阪: 1994年—」『阪大日本語研究』7: 1-21. 大阪大学文学部日本学科（言語系）.
- 1996.06 「U.アモン編『日本におけるドイツ語—実用面と学習面—』」〔紹介』『計量国語学』20(5): 209-216. 計量国語学会.
- 1996.09 「『分類語彙表』の増補について」〔ノート〕（中野洋との共著）『計量国語学』20(6): 257-264. 計量国語学会.
- 1996.11 「カテゴリー的多義性」鈴木泰・角田太作編『日本語文法の諸問題—高橋太郎先生古希記念論文集—』〔ひつじ研究叢書 言語編 13〕29-52. ひつじ書房.
- 1996.12 「黙読の一般化—言語生活史の対照—」『京都橋女子大学研究紀要』23: 1-16. 京都橋女子大学.
- 1997.05 「雑誌九十種表記表の統計」〔調査報告』『日本語科学』1: 92-104. 国立国語研究所.
- 1997.07 「『動詞教授資料』の結合価研究」『ことばの科学』8: 49-63. むぎ書房.
- 1997.08 「シソーラスへの要望—言語研究者の立場から—」『言語研究と世界のシソーラス』〔第5回国立国語研究所国際シンポジウム予稿集〕83-86. 国立国語研究所.
- 1997.10 「ヒト名詞の意味とアスペクト・テンス」川端善明・仁田義雄編『日本語文法 体系と方法』〔ひつじ研究叢書 言語編 14〕157-171. ひつじ書房.
- 1998.02 「わすれられた文法書『動詞教授資料』」『東京大学国語研究室創設百周年記念国語研究論集』1088-1080. 汲古書院.
- 1998.03 “Linguistic Consideration of the Micronesian Ways of Life during the Japanese Occupation (The Remnants of Japanese in Micronesia)”『大阪大学文学部紀要』38: 15-24. 大阪大学文学部.
- 1998.08 「『学術用語集 言語学編』紹介」『専門用語研究』16: 13-14. 専門用語研究会.
- 1998.09 「歌謡曲のリズムの変遷」〔ノート〕（三塩真理子との共著）『計量国語学』21(6): 268-274. 計量国語学会.
- 1999.01 「日本語とドイツ語の語彙史の比較」『国語と国文学』76(1): 1-12. 東京大学国語国文学会.
- 1999.01 「日本語とドイツ語の語彙史の比較（続）」『京都橋女子大学研究紀要』25: 134-113. 京都橋

女子大学.

- 1999.06 「助数詞の実態—食品に使用された場合—」〔調査報告〕(中尾英子との共著)『計量国語学』22(1): 1-10. 計量国語学会.
- 1999.07 「百年まえの口語文—「小公子」の文章—」〔特集 日本語の一世紀—く文法・語彙—若松賤子訳『小公子』のことばから〕『国文学 解釈と鑑賞』64(7): 32-38 至文堂.
- 1999.09 「言語政策史研究」〔特集 日本の言語問題〕〔展望論文〕『社会言語科学』2(1): 82-88. 社会言語科学会.
- 1999.12 「徳川さんの思い出」『国語学』199: 4-6. 国語学会.
- 2000.01 「方言のうつりかわり 長塚節『土』の方言はわかるか」〔特集 方言の一世紀〕『国文学 解釈と鑑賞』65(1): 85-92. 至文堂.
- 2000.03 「日本語研究の国際化」〔特集 日本語研究の将来と国語学会〕『国語学』200: 61-63. 国語学会.
- 2000.03 「国際化時代の日本語」〔口頭発表〕『国際化時代における外国語教育国際会議日本語部会論文集』1-11. 淡江大学外国語文学院.
- 2000.06 「ドイツ語圏の方言事情—統計資料を中心に—」『20世紀フィールド言語学の軌跡 徳川宗賢先生追悼論文集』31-40. 変異理論研究会.
- 2000.10 「『日本語教材を送る会』のこと」『日本語教育』107: 1-6. 日本語教育学会.
- 2001.02 「京都の日本語教育」『京都橘女子大学研究紀要』27: 192-183. 京都橘女子大学.
- 2001.03 「台湾日本語研究の目的と質問例」真田信治編『日本語の消滅に瀕した方言に関する調査研究』(科研費<sup>16</sup>報告書) 248-256. 大阪学院大学情報学部.
- 2001.03 「卒論・修論から」〔統計調査報告〕『計量国語学』22(8): 358-36. 計量国語学会.
- 2001.04 「言語生活分野での計量的研究概観」『日本語学』(臨時増刊号「日本語の計量研究法」) 20(5): 200-209. 明治書院.
- 2001.07 「概説 海外の日本語研究—アジアからの視角—」〔特集: 海外の日本語研究—アジアからの視角—〕『国文学 解釈と鑑賞』66(7): 6-10. 至文堂.
- 2001.12 「日本語の<危機>」『危機に瀕した言語について: 講演集』(科研費<sup>17</sup>報告書) 35-54. 大阪学院大学情報学部.
- 2002.02 「日本語教育特集号によせて—「教材を送る会」その後—」『京都橘女子大学外国語教育研究センター紀要』10: 1-3. 京都橘女子大学外国語教育研究センター.
- 2002.12 「『日本国語大辞典』(第二版)における初出文献の改訂」『近代語研究』11: 638-619. 武蔵野書院.
- 2003.03 「カテゴリー的多義の比較」『日語研究』1: 1-20. 商務印書館.
- 2003.03 「台湾の作文からみた方言的かたより」簡月真・渋谷勝己編『環太平洋地域に残存する日本語の諸相(2)—台湾—』(科研費<sup>18</sup>報告書) 77-84. 大阪学院大学情報学部.
- 2003.07 「日本語教育と漢字の知識」〔特集 日本語研究と日本語教育—日本語教育はすすんだか—〕『国文学 解釈と鑑賞』68(7): 224-231. 至文堂.
- 2004.01 「英語作品の用語の類似度」『京都橘女子大学紀要』30: 232-209. 京都橘女子大学.
- 2004.01 「日本語研究と私—林大—」〔この人に聞く〕<sup>19</sup>『国文学 解釈と鑑賞』69(1): 28-45. 至文堂.
- 2004.07 「林大先生をいたむ」『国文学 解釈と鑑賞』69(7): 213-215. 至文堂.
- 2004.11 「論説文の口語化」『近代語研究』12: 512-487. 武蔵野書院.
- 2005.01 「道具名詞の連語論」『京都橘女子大学研究紀要』31: 234-220. 京都橘女子大学.
- 2005.07 「連語論の位置づけ」〔特集 連語研究の新段階〕『国文学 解釈と鑑賞』70(7): 6-33. 至文堂.

16 特定領域研究(A)『環太平洋の「消滅に瀕した言語」にかんする緊急調査研究』

17 同上.

18 同上.

19 林大氏へのインタビュー. 聞き手: 宮島達夫, 鈴木泰, 松本泰夫.



- 2006.03 「言語研究における主観と客観」『ことばの科学』11: 40-48. むぎ書房.
- 2006.11 「「テイル」と「テル」」土岐哲先生還暦記念論文集編集委員会編『日本語の教育から研究へ』239-252. くろしお出版.
- 2006.12 「家電名の変化」『近代語研究』13: 420-406. 武蔵野書院.
- 2007.01 「外来語と「外行語」」『大葉応用日語学報』1: 1-10. 大葉大学外語学院応用日語学系.
- 2007.09 「戦時下日本の語彙 昭和前期日本語の問題点」『国語論究』13: 1-24. 明治書院.
- 2007.10 「語彙調査からコーパスへ」〔特集 コーパス日本語学の射程〕『日本語科学』22: 29-45. 国立国語研究所.
- 2007.10 「日本語研究と国立国語研究所」王鉄橋・姚灯鎮主編『国際化視野中的日本学研究 東亜日本学国際検討会論文集 記念胡振平教授從教 45 周年』14-20. 南開大学出版社.
- 2007.12 「連体修飾語「～の」の重複」〔ノート〕『計量国語学』26(3): 94-96. 計量国語学会.
- 2007.12 「連体ノ格名詞の重複と英語・中国語」『対照言語学研究』17: 11-19. 海山文化研究所.
- 2008.01 「芳賀矢一—形態論の先がけ—」〔特集 日本語文法の現在—みなおされる文法論〕『国文学 解釈と鑑賞』73(1): 22-29. 至文堂.
- 2008.01 「『文法教育』ができるまで」〔インタビュー 〔特集 日本語文法の現在〕〕『国文学 解釈と鑑賞』73(1): 98-113. 至文堂.
- 2008.09 「「テレビ」と「電視」—「電視」は和製漢語か—」『漢字文化圏諸言語の近代語彙の形成—創出と共有—」(関西大学東西学術研究所国際共同研究シリーズ 6) 95-110. 関西大学出版部.
- 2008.10 「文章の文体と単語の文体—国研コーパスを利用して—」『近代語研究』14: 388-375. 武蔵野書院.
- 2008.12 「英語圏の単語中心主義」『対照言語学研究』18: 1-6. 海山文化研究所.
- 2009.01 「語彙史の比較 (1) 日本語 (雑誌 90 種と 70 誌)」『京都橋大学研究紀要』35: 218-199. 京都橋大学.
- 2009.01 「『論説資料』の思い出」(田中章夫との共著)『国文学 解釈と鑑賞』74(1):204-207. 至文堂.
- 2010.01 「英語語彙史の計量的調査」『京都橋大学研究紀要』36: 71-88. 京都橋大学.
- 2010.08 「語彙史の巨視的比較」『漢日語言対比研究論叢』(中日言語対照研究論叢) 1: 6-17. 北京大学出版社.
- 2010.01 「ことばをまなぶ人の興味をそそる随筆集 荒川清秀著『中国語を歩く』」〔Book Review〕『東方』347: 30-33. 東方書店.
- 2011.01 「フランス語語彙史の計量的調査」『京都橋大学研究紀要』37:1-13. 京都橋大学.
- 2011.08 「コーパスによる日英比較」『現代日本語書き言葉均衡コーパス』完成記念講演会予稿集』161-176. 国立国語研究所.
- 2011.12 「コーパスによる日本語と英語の対照」『対照言語学研究』21: 1-15. 海山文化研究所.
- 2011.12 「古典作品の特徴語」(近藤明日子との共著)『計量国語学』28(3): 94-105. 計量国語学会.
- 2012.11 「漢字文化圏から漢語文化圏へ」茅島篤編著『日本語表記の新地平—漢字の未来・ローマ字の可能性—』19-33. くろしお出版.
- 2013.02 「動作範囲の拡張」『京都橋大学研究紀要』39: 322-311. 京都橋大学.
- 2013.07 「古典分類語彙表 (稿)」〔研究報告〕(鈴木泰・石井久雄・前田直子との共著)『学習院大学計算機センター年報』33: 40-121. 学習院大学
- 2014.01 「世界の言語と日本語将来」〔日本語の文字と教育 最新事情〕『ことばと文字』1: 56-68. 日本のローマ字社.

(2016 年 1 月 28 日受付)